中ノ堂一信著
『中世勧進の研究
――その形成と展開――』

「勧進」とは「人を勧めて仏道に入らせ、善根・功徳を積ませること」（中村元『仏教語大辞典』）であり、仏教における教化活動を指すのが原義である。しかし中世以降になると、社寺造営や仏像建立のための募財行為を指す言葉としても用いられるようになり、またその名目のもとに種々の芸能興行が催されるようになる。本書はそのような勧進について、著者が一九七〇年から八〇年にかけて発表した五本の論考を収録したものである。

そもそも勧進に関する研究は、民俗学において柳田國男氏以来の蓄積があるが、そこでは勧進聖が如何に庶民信仰を伝播したか、この点を解明することに焦点があった。それに対して中ノ堂氏の研究は、勧進そのものの史的推移を追ったものであり、歴史学における勧進研究の嚆矢といえる。現在も勧進に関する論文では最初に引用される先行研究であり、それらが一書に纏められたことの意義は大きい。

それ故、本書の内容は既に多くの研究者の目に触れたものであるが、簡単に概要を紹介しておく。第一章「中世的「勧進」の形成過程」では、大勧進職に任命された勧進聖が、寺家から事業を全面的に請け負って行う勧進を中世的「勧進」とし、重源による東大寺再興事業をその画期とする。第二章「東大寺大勧進職の成立」では、寺家による重源の大勧進職任命を建久八年に想定し、そこに至るまでの重源像、及び勧進聖の集団組織について考察する。第三章「中世的「勧進」の展開」では、中世における勧進の形態を①巡歴型勧進、②幕府依存型勧進、③朝廷助成型勧進、④興行型勧進とし、鎌倉期から室町期に至る勧進の展開を②③から④への変化に見る。第四章「中世の勧進と三昧聖」では、死後追善を担う三昧聖と勧進との関係から、中世において勧進が盛行した背景に穢から清浄への回復を願う中世人の精神構造があったとし、第五章「勧進と興行――勧進の近世的展開」では、勧進の宗教的側面が風化し、演能のための名目となる点を勧進の近世的展開とする。

さて、奇しくも中ノ堂氏の研究が発表された同時期に、黒田俊雄氏により顕密体制論が提唱され、中世仏教史研究は寺院社会を研究対象とする方向に大きく舵を切った。その結果、顕密寺院・地方寺院の堂塔修理・維持が問題となり、勧進に関する研究は一気に花開くことになる。その一つの成果は、「無縁」性から様々な寺社の大勧進職に補任され、造営事業を請け負った鎌倉中期以降の禅律僧に関する研究であり、また戦国から江戸初期に伽藍再建を担った本願についても、中近世移行期における寺社勢力の変化を示すものとして議論されている。まさに「中世勧進」の研究は、中ノ堂氏の研究を継承しつつ、質量ともに深化したと言えるだろう。但しその一方で、「勧進」の本義である「教化」の内容や対象、そこから生じる「信仰」といった宗教的側面については、議論が深められているとは言い難い。民俗学の成果として示されてきた民間信仰の伝播に勧進がどのような役割を果たしたのか、雨乞祈禱・虫送り祈願など堂塔修理・維持に収斂されない勧進聖の活動をどのように評価するのかなど、本書の刊行を契機として再び「中世勧進」の特

質が問い直されることが期待される。

（四六判　二二九頁　二〇一二年二月　法藏館　税別一六〇〇円）

（坪井剛　京都造形芸術大学非常勤講師）

受贈誌

（二〇一三年一〇月二一日～二〇一三年一二月一九日）

日本史研究（日本史研究会）六一四
国家學會雜誌（国家学会事務所）一二六―九・一〇
美術研究（東京文化財研究所）四一〇
アジア研究所所報（亜細亜大学アジア研究所）一五二
日本歴史（日本歴史学会）七八六
信濃（信濃史学会）六五―一〇
岐阜経済大学論集（岐阜経済大学学会）四七―一
三康文化研究所所報（三康文化研究所）四八
立命館法學（立命館大学法学会）三四九
経済研究（一橋大学経済研究所）六四―四
中央研究院　歴史語言研究所集刊（中央研究院歴史語言研究所）八四―三
神道宗教（神道宗教学会）二三〇
神道宗教（神道宗教学会）二三一
龍谷大学佛教文化研究所紀要（龍谷大学佛教文化研究所）五一
日本研究　国際日本文化研究センター紀要（国際日本文化研究センター）四八
史學雜誌（史學會（東京大学文学部内））一二二―一〇
歴史（東北史学会）一二一
日本史研究（日本史研究会）六一五
信濃（信濃史学会）六五―一一
立命館産業社会論集（立命館産業社会学会）四九―二
海事史研究（日本海事史学会）七〇
立命館史學（立命館史学会）三四
社会経済史学（社会経済史学会）七九―三
東北学院大学論集　歴史と文化（東北学院大学学術研究会）五一
経済論究（九州大学大学院経済学会）一四七
文化史學（文化史学会）六九
史迹と美術（史迹美術同攷会）八三九
日本歴史（日本歴史学会）七八七
考古学報（中国社会科学考古学研究所）二〇一三―四
駿台史學（駿台史学会）一四九
CHRONOS　クロノス（京都橘大学女性歴史文化研究所）VOL.三五
人文地理（人文地理学会）六五―五

編集後記

九七巻二号をお届けいたします。本号にも優れた論説、書評、紹介が集まりました。年度の変わり目でご多忙かとは思いますが、ぜひご味読ください。（小野容照）

◆**史学研究会ホームページ・アドレス**
http://www.shigakukenkyukai.jp/index.html

二〇一四年三月二五日印刷
二〇一四年三月三一日発行
史林　第九七巻第二号（通巻第五〇四号）
定価一、二〇〇円
京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内
電話　（〇七五）七五三―二七八七
FAX
発行人　史学研究会
振替京都　〇一〇七〇―二―五一五五番
理事長　上原真人
印刷所　京都市南区上鳥羽藤田二九　中村印刷株式会社